

講師のプロフィール



なか の とも え
中 野 巴 絵

1983年 白老町生まれ。

苫小牧駒澤大学在学中に先住民交流を体験した事により、本格的にアイヌ語の勉強を始める。アイヌ語指導者育成講座、アイヌ語上級講座を受講した後、白老親と子のアイヌ語教室の講師を担当する。

現在、財団法人アイヌ民族博物館伝承課事業普及係として勤務。

協力者の紹介

おか だ みち あき
岡 田 路 明

札幌市生まれ、現在は白老町在住。苫小牧駒澤大学教授。
このテキストの原稿執筆を担当。

【このテキストのアイヌ語と表記の仕方について】

現在のところアイヌ語には共通語というものはなく、それぞれの地域でそれぞれの方言が学ばれています。そのため、このテキストでは担当講師の方言（白老の方言）をベースにしています。

アイヌ語ラジオ講座のスケジュール表

月	日	LESSON	テ - マ	ページ
4月	4日	1	アイヌ語の発音1	6
	11日	2	アイヌ語の発音2	8
	18日	3	アイヌ語(単語)の成り立ち	10
	25日	4	簡単な会話1「ありがとう」	12
5月	2日	5	身近なアイヌ語	14
	9日	6	基本的な語順1	16
	16日	7	基本的な語順2	18
	23日	8	基本的な語順3	20
	30日	9	簡単な会話2「こんにちは」	22
6月	6日	10	否定の表現1	24
	13日	11	否定の表現2	26
	20日	12	否定の表現3	28
	27日	13	簡単な会話3「お元気ですか」	30

アイヌ語の表記方法

アイヌ文化は文字を持たない文化です。そこで、アイヌ語を書き表すには、カタカナやローマ字が用いられます。どちらも一長一短があり、どちらが使いやすいとは言えませんが、初めの内はカタカナで書いた方がわかりやすいのではないのでしょうか。

ア イ ウ エ オ

a i u e o

カ キ ク ケ コ

ka ki ku ke ko

サ シ ス セ ソ

sa si su se so

タ - トウ テ ト チャ チ チュ チェ チョ

ta tu te to ca ci cu ce co

ナ ニ ヌ ネ ノ

na ni nu ne no

ハ ヒ フ ヘ ホ パ ピ プ ペ ポ

ha hi hu he ho pa pi pu pe po

マ ミ ム メ モ

ma mi mu me mo

ヤ - ユ イェ ヨ

ya yu ye yo

ラ リ ル レ ロ

ra ri ru re ro

ワ - - ウェ ウォ

wa we wo

ン イ ウ ク ツ プ ム シ ラ リ ル レ ロ

n y w k t p m s r r r r r

MEMO

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

1: 母音は“ア”“イ”“ウ”“エ”“オ”の5つで、発音は日本語の母音とおおよそ同じです。“ウ”の発音だけは少し違い、“オ”に近い発音になります。ただし、最近では日本語の“う”と同じ音で発音されることが一般的になりました。

2: カ行音からワ行音までと、パ行音、チャ行音があります。ただし、タ行音に“ツ”の音はありません。その代り、“トゥ”の音があります。ヤ行音には、日本語にはない“イエ”の音があります。ワ行音にも、“ウエ”と“ウォ”の音があります。

解説



1: 母音は日本語と同じ数ですので、それほど難しくはありません。“ウ”は、“オ”を発音するときの口の形で“ウ”を発音したときの音に近いので、かつては“オ”と間違えて聞き取られました。古い文献に“イナオ”とか“アイノ”と書かれているのはそのためです。現在は“ウ”の音で発音しますので、“イナウ”や“アイヌ”と発音します。

“イ”と“ウ”は、母音の後に来ると軽く発音される傾向がありますが、普通に発音しても意味が変わりありませんので、このテキストでは使い分けることをしません。

2: “ツ”の音はありません。そのため、日本語から入ってきた言葉、例えば杯(つき)は“トゥキ”と発音します。また、“ツ”の濁音“ヅ”“ズ”もなく、小豆(あずき)は“アントゥキ”などと発音されます。

“イエ”の発音は、“イエ”一音ならそれほど難しい発音ではありませんが、“カイエ”などのように、母音の後ろに来ると正確に発音することが難しくなります。

“ウエ”“ウォ”は、日本語では単語として使われません。ただし、擬声語として使われます。子供の鳴く声“ウエーン”とか、オオカミの吠える声“ウォー”などに近い音です。

文化紹介

アイヌ

「アイヌ」という言葉は、アイヌ語で「神(カムイ)」に対する「人間」という意味を持っています。「アイヌ」という言葉の本来の意味は、「人間」もしくは「男性」を指していますが、和人との接触によって、「アイヌ」という言葉が民族名として用いられるようになりました。

近年になって、「アイヌ」という言葉を差別語として使う人が増えたために、「仲間」という意味の「ウタリ」という言葉が用いられるようになりました。最近になって、「アイヌ」が差別語として使われることが減ったことと、自らの民族性を明らかにするために、再び「アイヌ」という言葉が使われるようになりました。

1: アイヌ語のつまる音は、日本語のつまる音と少し違います。日本語のつまる音は、次にどの行の音に来るかによって発音が決まりますが、アイヌ語では次の音に影響されることなく発音されます。

小さい“ツ”。日本語のた行音の前に来る“っ”と似ています。日本語の“圧倒=あつとう”を“あつ”で止めたときに近い発音です。

小さい“ク”。日本語のか行音の前に来る“っ”と似ています。“漆器=しつき”を“しっ”で止めたときに近い発音です。

小さい“ブ”。日本語のぱ行音の前に来る“っ”と似ています。“説法=せっぽう”を“せっ”で止めたときに近い発音です。

小さい“シ”。日本語のさ行音の“し”の前に来る“っ”と似ています。“発車=はっしゃ”を“はっ”で止めたときに近い発音です。

小さい“ム”。日本語のま行音やば行音などの前に来る“ん”と似ています。“研磨=けんま”“乾杯=かんぱい”を“けん”“かん”で止めたときに近い発音です。

小さい“ラ、リ、ル、レ、ロ”。日本語には、似ている音がありません。ラ、リ、ル、レ、ロをはっきり発音せずに、軽く発音します。

MEMO

解説



1: 日本語のつまる音は、どの音の前でも全て“っ”で書き表します。そして、それを話すときには、次にどの音に来るかによって、意識することなく発音を使い分けています。アイヌ語のつまる音は、次にどの音に来るかによって決まるわけではないので、つまる音を意識的に使い分けなくてはなりません。

小さい“ツ”は、日本語の表記でも使われますので、それほど難しい発音ではありません。特にタ行音の前では、意識せずに発音してもこの音になります。ただし、他の音の前では少し難しく、厳密に言うと、小さい“ツ”では発音されません。多くの場合、“トゥ”を軽く発音した音に近くなります。

小さい“ク”は、カ行音の前では、それほど意識せずに発音しても、この音に近い発音になりますが、他の音の前では、少し発音しにくくなります。特に、タ行音の前では、小さい“ツ”になりがちなので、注意が必要です。

小さい“ブ”も、バ行音の前では意識せずに発音しても、この音に近い発音になりますが、他の音の前では少し発音し難くなります。

小さい“シ”は、サ行音の前では意識せずに発音しても、この音に近い発音になります。また、小さい“ス”で発音されることもあります。

小さい“ム”は、“ン”との使い分けが面倒です。ただし、“ム”で発音したときと“ン”で発音したときでは意味が違いますので、使い分けなければなりません。

小さい“ラ、リ、ル、レ、ロ”は日本語にはなく、始めは少し発音しにくいかもしれませんが、それほど難しい発音ではありませんので、少し練習すれば、発音できるようになります。

文化紹介

ポンアミフ

生まれたばかりの赤ちゃんには、とくに産着というものはなく、あり合わせの柔らかい布で包んでいました。また、赤ちゃんが長生きできるように、おばあさんの着ている「モウル(肌着)」で包むこともありました。

子どものころの衣服としては、子ども用の「アトウシ」が残っていますが、母親が着古して柔らかくなった衣服に、肩揚げや腰揚げをして、袖を詰めて小さくしたものが着せていました。最近では子ども用の木綿製刺繍衣を作り、儀式などに着せていますが、かつては子どもが儀式に参加することはなく、模様のない「アトウシ」を着せるのが一般的でした。



モウル

例文



1. アミプ(=着物)

ア ミ プ
a mi p
(私たち) 着る

2. ルウンペ(=主に胆振地方で作られる木綿製着物)

ル ウン ペ
ru un pe
筋 ある

3. アトゥシ(=樹皮の内皮で作った着物)

アツ ウシ
at us
糸 ある

4. カパラミプ(=主に日高地方で作られる木綿製着物)

カパラ アミプ
kapar amip
薄い 着物

5. クツ(=帯)

kut
帯

6. チパヌプ(=鉢巻)

チ パ ヌ プ
ci pa nu p
(私たち) 頭 帯びる

7. チチリ(=縮れ)

ciciri
ちぢり

解説



「アミプ」は着物全般を指す言葉で、全道的に使われます。「アミプ」の“ア”は人称接辞と呼ばれる品詞で、後ろの“ミ”という動詞に付いて、その動作を誰がするのかを表します。最後の“プ”は、動詞もしくは動詞句の後に付いて、動詞を名詞化する働きがあります。このように、アイヌ語には幾つかの単語が合わさってできているものがたくさんあります。

「ルウンペ」は胆振地方で作られる木綿製着物の名称です。最後の“ペ”は、“プ”と同じように動詞もしくは動詞句の後に付いて、動詞を名詞化する働きがあります。その違いは、子音で終わる言葉の後ろには“ペ”が使われ、母音で終わる言葉の後ろには“プ”が使われます。

「アトゥシ」はオヒョウの内皮で作った着物です。「アットゥシ」と言われることもあります。この単語のように、子音で終わる単語と母音で始まる単語が合わさると、子音と母音の合わさった発音になります。

「カパラミプ」は日高地方で作られる木綿製着物の名称です。この場合も、子音と母音が合わさって、1つの音として発音されています。また、“カパラ”や“アミプ”という単語も、更に分解することができます。

アイヌ語は、幾つかの単語が合わさってできた単語が多いのですが「クツ」のようにこれ以上は分解することができない単語もあります。それに対し、「チパヌプ」のように全部を分解することのできる単語もあります。

「チチリ」は日本語から物と一緒に入った言葉です。どこの言語も同じですが、外来語と呼ばれる単語がありません。ただし、アイヌ語に入った外来語は、日本語に入った外来語程には多くありません。

MEMO

文化紹介

アトゥシ(樹皮衣)

オヒョウの内皮を温泉や沼に浸けて柔らかくし、流水でよく洗ってぬめりを取り、薄く剥ぎ取って乾燥させます。その乾燥した皮を細く裂いて糸にし、織機で織って反物を作ります。その布で作った衣服を「アトゥシ」といいます。

「アトゥシ」は木の繊維で作られますので硬いイメージがあるのですが、実際にはやわらかくて身体によく馴染み、着心地の良いものです。しかも、晴れた日は乾燥して風を通し、天気の良い日は繊維が水分を含んで風を通さなくなるなど、とても優れた衣服です。



アトゥシ

例文



1. イヤイライケレ。

iyayraykere.

ありがとうございます

2. ハーブ。

hap.

ごちそうさま

3. フンナ。

hunna.

ごちそうさま

4. ヒオーイオイ。

hioyoy.

ごちそうさま

日本語訳



1.ありがとうございます。

2.ごちそうさま。

3.ごちそうさま。

4.ごちそうさま。

単語



アイヌ語	日本語訳	備考
イヤイライケレ	iyayraykere	ありがとうございます
ハーブ	hap	ごちそうさま
フンナ	hunna	ごちそうさま
ヒオーイオイ	hioyoy	ごちそうさま

解説



どのような文化も、言葉とそれ以外の文化、例えば衣食住などを切り離すことはできません。文化が失われると、言葉も消え去ります。逆に、言葉が失われると、真の文化を取り戻すことはできなくなります。

アイヌ文化は、人びとが互いに支え合って生きる文化です。そのため、アイヌ(=人間)の生活を守るカムイ(=神)や、周囲の人びとに対する感謝の気持ちを大切にしました。その意味からも、「イヤイライケレ」は最初に覚えていただきたい会話表現です。

「イヤイライケレ」は、本来とても丁寧な感謝の表現で、多くは男性によって使われました。それに対し、女性は「ハーブ」などの言葉を使います。この言葉は、人から食べ物などを貰ったときに、感謝の意を表す言葉として使われました。どちらも、単に言葉を発するだけでなく、定まった動作を伴って使われました。

ただし最近では、どのような場合でも男女の別なく、しかも動作を伴うこともなく「イヤイライケレ」が使われるようになりました。

「イヤイライケレ」には地方差がなく、殆どの地方で使われますが、「ハーブ」などの言葉は、地方によって方言差があります。

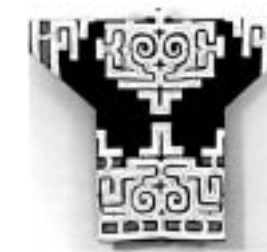
MEMO

文化紹介

ルウンペ(木綿衣)

白老地方で作られる代表的な木綿衣を、「ルウンペ」といいます。紺や茶色などの色の濃い木綿生地を着物本体を作り、白や赤などの木綿や絹の布で模様を付け、更に刺繍で文様を施します。「ルウンペ」は、色彩的にも模様のにも大変華やかです。そのため、たくさんの「ルウンペ」が世界中の博物館に保存されています。

最近は裁縫の技術を伝承する人も増え、古い「ルウンペ」に負けない位の素晴らしい作品が作られるようになりました。刺繍の出来の良し悪しが女性の評価を決めるといわれるほど、裁縫は大切な仕事でした。



ルウンペ

例文



*北海道文化の基本はアイヌ文化です。そのため、アイヌ語は身近なところでたくさん使われています。

- | | | | |
|----------|---------|---------|---------------|
| 1. ハスカップ | = ハシカプ | haskap | クロミノウグイスカズラの実 |
| 2. シシャモ | = スサム | susam | シシャモ |
| 3. ノンノ | = ノンノ | nonno | 花 |
| 4. ラッコ | = ラッコ | rakko | ラッコ |
| 5. トナカイ | = トゥナカイ | tunakay | トナカイ |

レラ(=風)、レラカムイ(=風の神)、ペウレ(=若い)など、他にも多くのアイヌ語が使われています。

最も身近なのは地名です。地名に使われるアイヌ語の例としては、下記のような単語があります。

1. ペツとナイ

「ペツ」と「ナイ」は、どちらも「川」を意味する単語です。「ペツ」を「川」と訳し、「ナイ」を「沢」と訳すこともありますが、両者に違いはありません。地名の中には、この「ペツ」と「ナイ」がたくさん使われています。

【例】

ペツ 漢字で書かれるときには、多くは「別」と書かれます。
ほんべつ、とうべつ、ほるべつ、のほりべつ、きもべつ、しべつ、しべつ、そうべつ
 本別、当別、幌別、登別、喜茂別、士別、標津、壮瞥。

ナイ 漢字で書かれるときには、多くは「内」と書かれます。
わつかない、うたし、ない、ほるない、まごまない、さつない、ほるか、ない、うえなえ、りやむない
 稚内、歌志内、幌内、真駒内、札内、幌加内、植苗、梨野舞納。

2. ポロとポン

「ポロ」と「ポン」は、地名の中では対で使われることの多い単語です。「ポロ」は「大きい」を意味し、「ポン」は「小さい」を意味します。

【例】

ポロ 漢字で書かれるときには、多くは「幌」と書かれます。
ほるない、ほるしりだけ、ほるむい、ほるべつ
 幌内、幌尻岳、幌向、幌別。

ポン 漢字で書かれるときはさまざまな字が当てられています。
ほんべつ、ほんど
 本別、奔渡。

解説



昔は、現在のような乗り物による交通網はありませんでした。よって、さまざまな目的で移動するときは、丸木舟を用いて川を行き来していました。また、歩いて移動するときも川を目印として使っていたために、川に付けられた名前がたくさんあります。伝承者のお話や、古い地図を見ても、山奥の小さな川でさえ名前が付けられていて、生活の中で川が果たしていた役割がわかります。

またアイヌ語地名は、川以外でもそこがどのような場所か、何が多いのかなど、生活に密接な関わりを持つ地域の状況を的確に捉えていて、現代にも役立つ情報が詰まっています。

【難読地名】

- | | | |
|---------|-----|--------------------------|
| 1. 添牛内 | [] | = 滝・そこに・ある・川 (幌加内町) |
| 2. 女満別 | [] | = 泉・ある・川 (大空町) |
| 3. 大楽毛 | [] | = 砂浜・中間 (釧路市) |
| 4. 訓子府 | [] | = 黒い・川 (訓子府町) |
| 5. 刺牛 | [] | = 昆布・ある・ところ (白糠町) |
| 6. 知来乙 | [] | = イトウ・たくさんいる・ところ (月形町) |
| 7. 止若内 | [] | = 泉・川 (音威子府村) |
| 8. 磯分内 | [] | = ウサギ・いる・川 (標茶町) |
| 9. 一己 | [] | = サケ、マスの産卵場 (深川市) |
| 10. 留辺蘂 | [] | = 道・～に沿って下る・川 (北見市) |
| 11. 知方学 | [] | = 船・入る・川 (釧路町) |
| 12. 去来牛 | [] | = カヤの・ある・所 (厚岸町) |
| 13. 来止臥 | [] | = ギョウジャニンニク・ある・ところ (釧路町) |
| 14. 札弦 | [] | = 夏の・道 (清里町) |
| 15. 白人 | [] | = 鳥が・たくさんいる・湖 (幕別町) |

文化紹介

サバシナ

儀式のときには、女性も「サバシナ」と呼ばれる鉢巻を締め、首飾りや耳飾りを付けて正装とします。現在は、女性も刺繍が施された鉢巻を締めますが、かつては、女性の鉢巻には模様がなく、黒や濃紺の布で鉢巻をしていました。現在も残されている古い刺繍入りの鉢巻の多くは、かつては男性が用いていました。

「タマサイ」と呼ばれる首飾りは、大陸や和人との接触によって入手したガラス玉で作られました。その他にも「ニンカリ」を付けました。「ニンカリ」は耳飾りのことで、最近でも女性は儀式のときに「ニンカリ」を付けます。



タマサイ

- *難読地名の答え
- | | | | | |
|----------|-----------|----------|---------|---------|
| 1.そえうしない | 2.めまんべつ | 3.おたのしけ | 4.くんねっぶ | 5.さしうし |
| 6.ちらいおつ | 7.やむわっかない | 8.いそぶんない | 9.いちゃん | 10.るべしべ |
| 11.ちぼまない | 12.さるきうし | 13.きとうし | 14.ざつふる | 15.ちろっと |

例文



1. キムンカムイ アプカシ。
kimunkamuy apkas.
ヒグマ 歩く
2. オンネ キムンカムイ アプカシ。
onne kimunkamuy apkas.
年老いた ヒグマ 歩く
3. ヌマン アプト アシ。
numan apto as.
昨日 雨 降る
4. ヌマン ト エピッタ アプト アシ。
numan to epitta apto as.
昨日 日 全部 雨 降る
5. チカプポ ロク。
cikappo rok.
小鳥 止まる
6. ニチャテク カ タ チカプポ ポロンノ ロク。
nicatek ka ta cikappo poronno rok.
木の枝 上 に 小鳥 たくさん 止まる

日本語訳



1. ヒグマが歩く。
2. 年老いたヒグマが歩く。
3. 昨日、雨が降った。
4. 昨日、一日中雨が降った。
5. 小鳥が止まっている。
6. 木の枝の上に、小鳥がたくさん止まっている。

単語



アイヌ語	日本語訳	備考
キムンカムイ	kimunkamuy	ヒグマ
アプカシ	apkas	歩く
オンネ	onne	年老いた
ヌマン	numan	昨日
アプト	apto	雨
アシ	as	降る
ト	to	日
エピッタ	epitta	全部
チカプポ	cikappo	小鳥
ロク	rok	座る 止まる(複数)
ニチャテク	nicatek	木の枝
カ	ka	~の上
タ	ta	~に(一定の場所を指す)
ポロンノ	poronno	たくさん

解説



今回の例文は、言葉が少しずつ長くなります。言葉が長くなっても、語の並びは変わりません。もちろん、前回の説明にも書いたように、日本語とは異なる並び方をすることもあります。取り敢えずは、日本語の並びに合わせて単語を増やすことによって、言葉を長くすることができます。

言葉の並びは日本語に似ていますが、細かな部分は異なるところもたくさんあります。例えば、動詞には単数形と複数形で異なるものがあります。また、「全部」を表す単語が「エピッタ」以外にもあって、状況によって使い分けたりします。

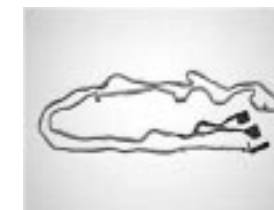
MEMO

文化紹介

ラウンクッ

女性が母や祖母から受け継ぐ大切なものに「ラウンクッ」があります。「ラウンクッ」は、主にツルウメモドキの内皮から取る繊維によって作られ、家系によって作り方や形が異なります。その作り方や形は、それぞれの家系を表していますので、母系の印として代々受け継がれてきました。

「ラウンクッ」は、母親が誰にも見られないように作り、娘が嫁に行くときに持たせます。夫以外の人に決して手を触れさせてはいけない、女性のお守りのような紐です。



ラウンクッ

例文



1. タン クンネ セタ ミク。
tan kunne seta mik .
この 黒い 犬 吠える
2. カピウ チェブ ポロンノ エ。
kapiw cep poronno e.
カモメ 魚 たくさん ~を食べる
3. チセ オッタ シネ チャペ アン。
cise otta sine cape an .
家 の中 1(匹) 猫 いる
4. トアン クル ニサッタ サツポロ ウン オマン。
toan kur nisatta sapporo un oman.
あの 人 明日 札幌 ~へ 行く
5. タン フレ ヌム ニカオマブ ネ。
tan hure num nikaomap ne.
この 赤い 実 果物 ~だよ

日本語訳



1. この黒い犬は吠える。
2. カモメは魚をたくさん食べる。
3. 家の中に1匹の猫がいる。
4. あの人は明日札幌へ行く。
5. この赤い実は果物だよ。

単語



アイヌ語		日本語訳	備考
タン	tan	この	
クンネ	kunne	黒い	
セタ	seta	犬	
ミク	mik	吠える	
カピウ	kapiw	カモメ	
チェブ	cep	魚	
エ	e	~を食べる	
チセ	cise	家	
オッタ	otta	~の中	
シネ	sine	1(匹)	
チャペ	cape	猫	
アン	an	いる(単数)	
トアン	toan	あの	
クル	kur	人	
ニサッタ	nisatta	明日	
ウン	un	~へ	
オマン	oman	行く	
フレ	hure	赤い	
ヌム	num	実	
ニカオマブ	nikaomap	果物	
ネ	ne	~だよ	

解説



前回と同じように、言葉の並びを学びます。今回も少し長い表現をしています。単語の数が増えると難しくなりますが、基本的な語の並びは同じです。

今回の表現は、この後の否定の表現に使いますので、しっかりと覚えてください。

MEMO

文化紹介

シノツ

子どもたちの遊びは「シノツ」と言います。「シノツ」は単に楽しむだけのものではなく、そのほとんどが大人になってからコタンの一員として生活していくために必要な技術や知識を身に付ける習練でもありました。

しかも現在のように豊富なおもちゃが売られていたわけではないので、遊びに使う道具は自然の中から得られる木や植物を材料にし、年上や大人の人たちに教わりながら作りました。このことは、自然の状況や社会の繋がりを知る機会にもなっていました。



「ヘカツタラ シノツ
(子どもたちのあそび)」より

例文



1. イランカラプテ。

irankarapte.
こんにちは

2. タント シリピリカ ワ。

tanto sirpirka wa.
今日 天気が良い よ

3. クンネ ワ アン ナ。

kunne wa an na.
暗くなる ~て ある よ

4. オフオフー。

ohuohu.
(咳払いの声)

日本語訳



1. こんにちは。
2. 今日は天気が良いね。
3. 暗くなりましたね。
4. (咳払いの声)

MEMO

単語



アイヌ語	日本語訳	備考
イランカラプテ	irankarapte	こんにちは
タント	tanto	今日
シリピリカ	sirpirka	天気が良い
ワ	wa	~よ ~ね
クンネ	kunne	暗くなる
ワ	wa	~して
アン	an	なる
ナ	na	~よ ~ね
オフオフ	ohuohu	(咳払いの声)

解説



今回習う「イランカラプテ」は、とても丁寧な挨拶言葉です。かつてのアイヌ文化では、初めて出会った人や、会う機会の少ない人との挨拶として、その相手に対する尊敬の念を表す動作を伴って「イランカラプテ」が使われました。本来は男性のみが使う言葉なのですが、最近は男女の別なく、日本語の「こんにちは」と同じ感覚で使われます。

かつての社会では、日常の生活は小さなコタン(=村)の中で営まれましたので、コタン中が家族のようでした。そのため、改まった挨拶は必要としませんでした。ただし、いくら親しい仲とはいえ、いきなり家の中へ入り込むことはできません。そこで、人の家を訪ねるときは、入り口に立って自分が来ていることを知らせる動作をします。その方法は、男性なら軽く咳払いをします。女性は咳払いをするわけにいきませんので、咳払いの声を模して「オフオフー」とやさしく言います。そうすると家人が聞き付け、招き入れてくれます。

MEMO

文化紹介

シヌイエ

女性は13歳くらいになると、口の周りや手の甲から肘にかけて「シヌイエ(入墨)」をしました。「シヌイエ」を初めた理由は明らかではありませんが、しなければ周囲から一人前の女性として認められず、結婚をすることも儀式へ参加することも許されませんでした。もし「シヌイエ」をしていない女性と結婚すると、漁獵に行っても獲物に恵まれないといわれました。また、死んでも先祖のいるあの世へは行くことはできないといわれ、かつては必ずしました。

例文



1. タン クンネ セタ ソモ ミク。

tan kunne seta somo mik.

この 黒い 犬 ~ない 吠える

2. レタツチリ チェブ ソモ エ。

retatcir cep somo e.

白鳥 魚 ~ない ~を食べる

3. チセ オッタ チャペ ソモ アン。

cise otta cape somo an.

家 の中 猫 ~ない いる

4. トアン クル ニサッタ サツポロ ウン ソモ オマン。

toan kur nisatta sapporo un somo oman.

あの 人 明日 札幌 ~へ ~ない 行く

日本語訳



1. この黒い犬は吠えない。
2. 白鳥は魚を食べない。
3. 家の中に猫はいない。
4. あの人は明日札幌へは行かない。

MEMO

単語



アイヌ語	日本語訳	備考
ソモ	somo	~ない

解説



日本語の語順と違うものの一つに、否定の表現があります。日本語では「食べない」「行かない」などのように、動作を表す語(動詞)「食べる」「行く」の後に「ない」を付けて否定の表現をしますが、アイヌ語では動詞の前に「ソモ」を付けて否定の表現をします。

ただし、日本語のように“ない”を付けると動詞の語尾が変化する言葉と違って、否定形にしても動詞の語尾が変化することはありません。

MEMO

文化紹介

ウコロ

アイヌ文化の「ウコロ(結婚)」は、物語の中などでは小さい頃から許嫁が決められていて、大人になるとその相手と結婚すると語られていますが、多くは恋愛で相手を見つけていました。好きな相手ができると、男性は女性用小刀などの道具類、女性は手甲などの衣服類をプレゼントし、受け取った側は、それらを身につけることで交際の意思表示をしたといわれます。

相手が決まるとコタンの人々が協力しあって「チセ(家)」を建て、そこで暮らしました。よって、2世代が同じ「チセ」に住むことはなく、家族ごとに生活しました。



マキリ(小刀)

例文



1. タン クンネ セタ ミク カ ソモ キ。

tan kunne seta mik ka somo ki.

この 黒い 犬 吠える ~もしない

2. レタッチリ チェブ エ カ ソモ キ。

retatcir cep e ka somoki.

白鳥 魚 ~を食べる ~もしない

3. チセ オッタ チャペ アン カ ソモ キ。

cise otta cape an ka somo ki.

家 の中 猫 いる ~もしない

4. トアン クル ニサッタ サツポロ ウン オマン カ ソモ キ。

toan kur nisatta sapporo un oman ka somo ki.

あの 人 明日 札幌 ~へ 行く ~もしない

5. タン フレ ヌム ニカオマブ カ ソモ ネ。

tan hure num nikaomap ka somo ne.

この 赤い 実 果物 ~ではない

日本語訳



1. この黒い犬は吠えない。
2. 白鳥は魚を食べない。
3. 家の中に猫はいない。
4. あの人は明日札幌へは行かない。
5. この赤い実は果物ではない。

単語



アイヌ語	日本語訳	備考
カ ソモ キ	ka somo ki	~もしない
カ ソモ ネ	ka somo ne	~ではない

解説



「ソモ」を用いた否定文の作り方は先週説明しましたが、同じ意味になる表現がもう一つあります。こちらは動詞の後に付きますので、語順は日本語と同じになります。「カ ソモ キ」を直訳すると、「~も ない する」という意味になりますが、「カソモキ」は「~しない」という一つの単語のように使われます。

また、「~ではない」という表現は、「カ ソモ ネ」を使います。付く場所は「カ ソモ キ」と同じ場所です。「カ ソモ キ」は「~しない」という意味ですから、動作を直接否定するとき以外は使えません。それで、「~ではない」と言う「カ ソモ ネ」を使います。

MEMO

文化紹介

イレス

現在の文化では、結婚して子どもができるとすぐに名前を付けますが、かつてのアイヌ文化では、子どもが健康に育つことが明らかになるまでは、名前を付けることをしませんでした。子どもに名前を付け、周囲の人々が子どもの名前を呼ぶことによって、悪い神様が子どもに悪戯をすると、抵抗力のない子どもは育つことができないと信じられていました。

子どもはコタンにとって大切な存在でした。子どもが育たなければコタンを維持することができません。そこで、コタンの人びとが協力して「イレス(育児)」をしました。

例文



1. イテッケ ネノ。
itekke neno.
～するな そのような
2. イテキ ウコイキ。
iteki ukoyki.
～するな 喧嘩
3. イテッケ ホユプ。
itekke hoyupu.
～するな 走る
4. イテキ イテキ。
iteki iteki.
だめ だめ

日本語訳



1. そのようなことをするな(だめ)。
2. 喧嘩をするな。
3. 走るな。
4. だめだめ。

MEMO

単語



アイヌ語		日本語訳	備考
イテッケ	itekke	～するな	
ネノ	nenno	そのような	
イテキ	iteki	～するな	
ウコイキ	ukoyki	喧嘩	
ホユプ	hoyupu	走る	

解説



今回の表現は、きつい命令の言い方です。命令ではありますが、否定の表現でもありますので、他の否定と同じように動詞の前に付いて、後ろの動詞を否定します。

全道的には「イテッケ」と「イテキ」の二つがあって、どちらかしか使われない地方もあります。白老では両方とも使われ、区別されることはありません。ただし、どちらを使っても良いわけでもなく、「イテッケ ネノ」を「イテキ ネノ」と言い換えることはできません。同じように「イテキ イテキ」を「イテッケ イテッケ」と表現することも、あまり聞きません。

MEMO

文化紹介

イラマンテ

子どもが大きくなると一人前の大人として認められますが、現在の文化のように成人式のようなものではありませんでした。伝承では、男の子は弓で鳥を取ることができれば一人前の大人として扱われ、「イラマンテ(山獵)」にも一緒に行くことができました。

他の大人たちと「イラマンテ」に一緒に行き、十分に役割を果たすことができるようになると結婚も許され、周囲からは一人前の大人として認められました。

それに対し女性は、「シヌイエ」をすることによって一人前の大人と認められ、コタンの儀式などにも参加が許され、結婚することも許されました。



矢



矢筒

例文



1. イワンケノ アン ナ。
iwankeno an na .
元気良く いる ~よ
2. ラムマ カ アン ナ。
ramma ka an na .
変わりなく いる ~よ
3. トゥナシノ アン ナ。
tunasno an na .
早い いる ~よ
4. エカシ イワンケノ オカイ。
ekasi iwankeno okay .
お爺さん 元気良く いる

日本語訳



1. 元気でいたか。
2. 変わらないか。
3. 素早くいたか=健康でいたか。
4. お爺さん、お元気ですか。

MEMO

単語



アイヌ語		日本語訳	備考
イワンケノ	iwankeno	健康で	
ナ	na	~よ ~ね	
ラムマ	ramma	変わりなく	
トゥナシノ	tunasno	早く	
エカシ	ekasi	お爺さん	
ワ	wa	~よ ~ね	
オカイ	okay	いる(複数)	

解説



「簡単な会話2」のところでは一般的な挨拶に付いて触れましたが、日常生活では「イランカラプテ」を使うことは滅多にありませんでした。近年は文化も変わり、日常生活でも使われる機会が多くなりましたが、親しい仲で使われることは稀です。親しい仲で、何日かぶりに顔を合わせたときなどは、「元気でいたかい」とか「変わりはないかい」のように、互いの健康状態などを気遣った言葉を交わしました。

相手に健康状態を尋ねているので、疑問形が用いられることも多いのですが、「元気でいたかい」のような挨拶をするときは疑問形にせず、語尾を上げて発音することによって聞くこともありました。また、相手が尊敬すべきお年寄りのような場合には、相手が一人でいたとしても、複数型の動詞を使って挨拶をします。

MEMO

文化紹介

ライ

人が「ライ(死)」すると葬式を行いました。葬式は僧侶のような宗教者が取り仕切るのではなく、コタンの男性によって行われました。人は死ぬとあの世へ行き、この世と変わらない生活をすると考えられています。

埋葬は土葬でした。死者が生前使用していた日用品や、装飾品、宝物などの副葬品と一緒に埋葬されました。かつては墓参りをせず、何かあるごとにそれぞれのチセの傍で先祖供養祭を行って、先祖のもとへ食べ物などを送りました。



死者用脚絆